

【表紙】

| | |
|------------|------------------------------------|
| 【提出書類】 | 四半期報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の7第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2023年8月14日 |
| 【四半期会計期間】 | 第7期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日） |
| 【会社名】 | 技研ホールディングス株式会社 |
| 【英訳名】 | Giken Holdings Co.,Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 佐々木 ベジ |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都千代田区神田東松下町17番地 |
| 【電話番号】 | 東京 6635 局 1839 番（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 会計担当者 村田 幸生 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都千代田区神田東松下町17番地 |
| 【電話番号】 | 東京 6635 局 1839 番（代表） |
| 【事務連絡者氏名】 | 会計担当者 村田 幸生 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第6期 第1四半期連結 累計期間 | 第7期 第1四半期連結 累計期間 | 第6期 |
|----------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 会計期間 | 自2022年 4月1日 至2022年 6月30日 | 自2023年 4月1日 至2023年 6月30日 | 自2022年 4月1日 至2023年 3月31日 |
| 売上高 (千円) | 1,469,332 | 1,186,125 | 5,480,028 |
| 経常利益 (千円) | 211,960 | 93,071 | 517,359 |
| 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円) | 138,190 | 53,730 | 329,154 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (千円) | 213,127 | 340,807 | 338,359 |
| 純資産額 (千円) | 9,660,815 | 9,860,039 | 9,535,472 |
| 総資産額 (千円) | 15,596,032 | 16,235,331 | 15,725,913 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 8.51 | 3.31 | 20.27 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 61.9 | 60.7 | 60.6 |

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国際情勢の悪化、急速な円安の進行、原材料費の高騰による物価上昇などインフレが加速しており、今後の先行きは楽観できない状況にあります。

当社グループが属する建設業界におきましては、民間設備投資は一部回復傾向が見られるものの、建設資材価格の高騰等の影響が懸念され、引き続き厳しい状況にあります。

このような中、当社グループは、社会資本整備の一翼を担う企業集団として、自然災害の復旧支援、医療施設の改修事業等、国民の安全と豊かな暮らしの土台形成のための事業展開を行ってまいりました。

この結果、受注高は前年同期比5.0%増の1,405百万円となりましたが、前期繰越工事及び当期受注工事の進捗が伸び悩んだことにより、売上高につきましては前年同期比19.3%減の1,186百万円、営業損失につきましては12百万円（前年同期は営業利益102百万円）、経常利益につきましては前年同期比56.1%減の93百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比61.1%減の53百万円となりました。

当社グループの前期繰越受注高、受注高、売上高、次期繰越高は次のとおりであります。

| 期間（年度）別 | 前期繰越受注高 （千円） | 受注高 （千円） | 売上高 （千円） | 次期繰越高 （千円） |
|--------------|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| 前第1四半期連結累計期間 | 2,901,643 | 1,338,242 | 1,469,332 | 2,770,554 |
| 当第1四半期連結累計期間 | 2,396,407 | 1,405,297 | 1,186,125 | 2,615,580 |

当第1四半期連結累計期間のセグメント別の業績は以下のとおりであります。

(土木関連事業)

法面保護工事が主体の当事業は、台風や集中豪雨に伴う復旧工事の受注が減少した結果、受注高は前年同期比82.8%減の83百万円となり、売上高は前期繰越工事及び当期受注工事の進捗も伸び悩み、60.1%減の170百万円、営業利益におきましては前年同期比79.5%減の18百万円となりました。

当セグメントの前期繰越受注高、受注高、売上高及び次期繰越高は以下のとおりであります。

| 期間（年度）別 | 前期繰越受注高 （千円） | 受注高 （千円） | 売上高 （千円） | 次期繰越高 （千円） |
|--------------|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| 前第1四半期連結累計期間 | 587,171 | 486,092 | 428,644 | 644,618 |
| 当第1四半期連結累計期間 | 255,267 | 83,569 | 170,977 | 167,858 |

(建築関連事業)

医療施設向けの放射線防護、電磁波シールド工事等が主体の当事業は、工事が計画通り進んだ結果、受注高は前年同期比79.6%増の912百万円、売上高は前年同期比2.7%増の725百万円となりましたが、原材料の価格高騰等により、営業利益におきましては前年同期比91.2%減の5百万円となりました。

当セグメントの前期繰越受注高、受注高、売上高及び次期繰越高は以下のとおりであります。

| 期間(年度)別 | 前期繰越受注高 (千円) | 受注高 (千円) | 売上高 (千円) | 次期繰越高 (千円) |
|--------------|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| 前第1四半期連結累計期間 | 2,058,682 | 508,096 | 705,930 | 1,860,848 |
| 当第1四半期連結累計期間 | 1,949,965 | 912,668 | 725,238 | 2,137,394 |

(型枠貸与関連事業)

消波根固ブロック製造用型枠の賃貸及びコンクリート二次製品の販売が主体の当事業は、自然災害の復旧事業に伴う受注獲得に邁進した結果、受注高は前年同期比16.1%増の386百万円となりました。新規受注高には翌四半期会計期間に帰属する受注もあり、売上高は前年同期比15.7%減の265百万円となりましたが、徹底した経費削減により営業利益におきましては前年同期比287.4%増の42百万円となりました。

当セグメントの前期繰越受注高、受注高、売上高及び次期繰越高は以下のとおりであります。

| 期間(年度)別 | 前期繰越受注高 (千円) | 受注高 (千円) | 売上高 (千円) | 次期繰越高 (千円) |
|--------------|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| 前第1四半期連結累計期間 | 148,129 | 333,204 | 314,486 | 166,848 |
| 当第1四半期連結累計期間 | 110,084 | 386,706 | 265,227 | 231,563 |

(その他)

その他の分野には、不動産賃貸事業、海外での事業等をまとめてその他としております。受注高は前年同期比106.0%増の22百万円、売上高は前年同期比21.8%増の24百万円、営業利益におきましては賃貸物件の増加による固定費の増加等により前年同期比54.0%減の3百万円となりました。

当セグメントの前期繰越受注高、受注高、売上高及び次期繰越高は以下のとおりであります。

| 期間(年度)別 | 前期繰越受注高 (千円) | 受注高 (千円) | 売上高 (千円) | 次期繰越高 (千円) |
|--------------|-----------------|-------------|-------------|---------------|
| 前第1四半期連結累計期間 | 107,659 | 10,848 | 20,269 | 98,239 |
| 当第1四半期連結累計期間 | 81,090 | 22,353 | 24,680 | 78,763 |

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ、509百万円増加し16,235百万円となりました。増加した主な要因は、政策投資目的として保有している投資有価証券の時価評価による増加等でありませ

ず。
負債は、前連結会計年度末に比べ、184百万円増加し6,375百万円となりました。増加した主な要因は、その他流動負債の増加等であります。

純資産は、有価証券の評価差額金の増加等により前連結会計年度末に比べ、324百万円増加し9,860百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ、0.1%増の60.7%となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発活動の金額は3百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 50,000,000 |
| 計 | 50,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (2023年6月30日) | 提出日現在発行数(株) (2023年8月14日) | 上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名 | 内容 |
|------|--|-----------------------------|------------------------------------|---------------|
| 普通株式 | 16,237,977 | 16,237,977 | 東京証券取引所 (スタンダード市場) | 単元株式数 100株 |
| 計 | 16,237,977 | 16,237,977 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|--------------------------|-----------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 2023年4月1日～ 2023年6月30日 | - | 16,237,977 | - | 1,120,000 | - | 1,473,840 |

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 2,600 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 16,164,200 | 161,642 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 71,177 | - | - |
| 発行済株式総数 | 16,237,977 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 161,642 | - |

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、4,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数40個が含まれております。「単元未満株式」欄の普通株式には、当初保有の自己株式85株が含まれております。

【自己株式等】

2023年3月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義所有株式数(株) | 他人名義所有株式数(株) | 所有株式数の合計(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|----------------|-----------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|
| 技研ホールディングス株式会社 | 東京都千代田区神田 東松下町17番地 | 2,600 | - | 2,600 | 0.01 |
| 計 | - | 2,600 | - | 2,600 | 0.01 |

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清流監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日) |
|----------------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 3,003,500 | 2,796,610 |
| 受取手形・完成工事未収入金等及び契約資産 | 2,007,177 | 1,897,790 |
| 有価証券 | 233,921 | 234,920 |
| 棚卸資産 | 397,537 | 392,163 |
| その他 | 36,106 | 152,944 |
| 貸倒引当金 | 5,368 | 4,919 |
| 流動資産合計 | 5,672,874 | 5,469,510 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 4,041,941 | 4,296,996 |
| その他(純額) | 1,452,167 | 1,486,703 |
| 有形固定資産合計 | 5,494,109 | 5,783,700 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 115,726 | 105,428 |
| 無形固定資産合計 | 115,726 | 105,428 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 4,263,806 | 4,789,392 |
| その他 | 229,260 | 137,861 |
| 貸倒引当金 | 49,863 | 50,562 |
| 投資その他の資産合計 | 4,443,203 | 4,876,691 |
| 固定資産合計 | 10,053,038 | 10,765,820 |
| 資産合計 | 15,725,913 | 16,235,331 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形・工事未払金等 | 1,551,034 | 1,418,171 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 553,055 | 585,344 |
| 未払法人税等 | 71,588 | 118,042 |
| 契約負債 | 50,992 | 51,542 |
| 引当金 | 37,333 | 51,453 |
| その他 | 220,849 | 408,182 |
| 流動負債合計 | 2,484,852 | 2,632,736 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3,566,434 | 3,573,907 |
| 繰延税金負債 | 1,267 | 22,073 |
| 退職給付に係る負債 | 91,803 | 106,520 |
| その他 | 46,082 | 40,054 |
| 固定負債合計 | 3,705,587 | 3,742,555 |
| 負債合計 | 6,190,440 | 6,375,291 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2023年3月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,120,000 | 1,120,000 |
| 資本剰余金 | 1,473,840 | 1,473,840 |
| 利益剰余金 | 7,087,776 | 7,125,271 |
| 自己株式 | 709 | 715 |
| 株主資本合計 | 9,680,907 | 9,718,396 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 122,270 | 164,922 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 23,164 | 23,280 |
| その他の包括利益累計額合計 | 145,434 | 141,642 |
| 純資産合計 | 9,535,472 | 9,860,039 |
| 負債純資産合計 | 15,725,913 | 16,235,331 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 1,469,332 | 1,186,125 |
| 売上原価 | 1,171,295 | 1,020,276 |
| 売上総利益 | 298,036 | 165,848 |
| 販売費及び一般管理費 | 195,318 | 177,922 |
| 営業利益又は営業損失() | 102,717 | 12,073 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 49 | 8 |
| 受取配当金 | 94,015 | 107,344 |
| 助成金収入 | 7,304 | 3,082 |
| その他 | 18,238 | 10,859 |
| 営業外収益合計 | 119,607 | 121,296 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 10,364 | 12,006 |
| 訴訟関連費用 | - | 4,143 |
| その他 | 1 | 1 |
| 営業外費用合計 | 10,365 | 16,151 |
| 経常利益 | 211,960 | 93,071 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 211,960 | 93,071 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 61,490 | 55,337 |
| 法人税等調整額 | 12,279 | 15,996 |
| 法人税等合計 | 73,769 | 39,341 |
| 四半期純利益 | 138,190 | 53,730 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | - | - |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 138,190 | 53,730 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 138,190 | 53,730 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 348,537 | 287,193 |
| 退職給付に係る調整額 | 2,779 | 115 |
| その他の包括利益合計 | 351,317 | 287,077 |
| 四半期包括利益 | 213,127 | 340,807 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 213,127 | 340,807 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 35,968千円 | 33,341千円 |

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 2022年6月25日 定時株主総会 | 普通株式 | 16,235 | 1 | 2022年3月31日 | 2022年6月27日 | 利益剰余金 |

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|---------------------|------------|------------|-------|
| 2023年6月24日 定時株主総会 | 普通株式 | 16,235 | 1 | 2023年3月31日 | 2023年6月26日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注)1 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|---------------------------|------------|------------|--------------|-----------|-------------|-------------|-------------------------------|
| | 土木関連 事業 | 建築関連 事業 | 型枠貸与 関連事業 | 計 | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 一定期間にわ たり認識する 収益 | 428,644 | 670,851 | - | 1,099,496 | - | - | 1,099,496 |
| 一時点で認識 する収益 | - | 35,079 | 66,782 | 101,861 | 12,806 | - | 114,668 |
| 顧客との契約 から生じる収 益 | 428,644 | 705,930 | 66,782 | 1,201,358 | 12,806 | - | 1,214,164 |
| その他の収益 | - | - | 247,704 | 247,704 | 7,463 | - | 255,167 |
| 外部顧客への 売上高 | 428,644 | 705,930 | 314,486 | 1,449,062 | 20,269 | - | 1,469,332 |
| セグメント間 の内部売上高 又は振替高 | - | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 428,644 | 705,930 | 314,486 | 1,449,062 | 20,269 | - | 1,469,332 |
| セグメント利益 | 90,129 | 60,563 | 11,001 | 161,694 | 8,035 | 67,011 | 102,717 |

(注)1. その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 67,011千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注)1 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|-------------------|------------|------------|--------------|-----------|-------------|-------------|-------------------------------|
| | 土木関連 事業 | 建築関連 事業 | 型枠貸与 関連事業 | 計 | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 一定期間にわたり認識する収益 | 170,977 | 676,939 | - | 847,917 | - | - | 847,917 |
| 一時点で認識する収益 | - | 48,299 | 24,623 | 72,923 | 9,569 | - | 82,492 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 170,977 | 725,238 | 24,623 | 920,840 | 9,569 | - | 930,409 |
| その他の収益 | - | - | 240,604 | 240,604 | 15,111 | - | 255,715 |
| 外部顧客への売上高 | 170,977 | 725,238 | 265,227 | 1,161,444 | 24,680 | - | 1,186,125 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | - | - | - | - | - | - | - |
| 計 | 170,977 | 725,238 | 265,227 | 1,161,444 | 24,680 | - | 1,186,125 |
| セグメント利益又は損失() | 18,465 | 5,322 | 42,622 | 66,410 | 3,697 | 82,181 | 12,073 |

(注) 1. その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 82,181千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日) |
|-----------------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益 | 8円51銭 | 3円31銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益(千円) | 138,190 | 53,730 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円) | 138,190 | 53,730 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 16,235 | 16,235 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(重要な訴訟事件等)

当社連結子会社である技研興業株式会社が当事者になっている係争中の訴訟が存在するものの、当該訴訟が当社グループの財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼすことはないと考えております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月14日

技研ホールディングス株式会社

取締役会 御中

清流監査法人
東京都港区

代表社員 公認会計士 久保 文子
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 吉田 徹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている技研ホールディングス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、技研ホールディングス株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。